

西脇東中学校区・黒田庄中学校区第1回統合懇談会

これからの教育について

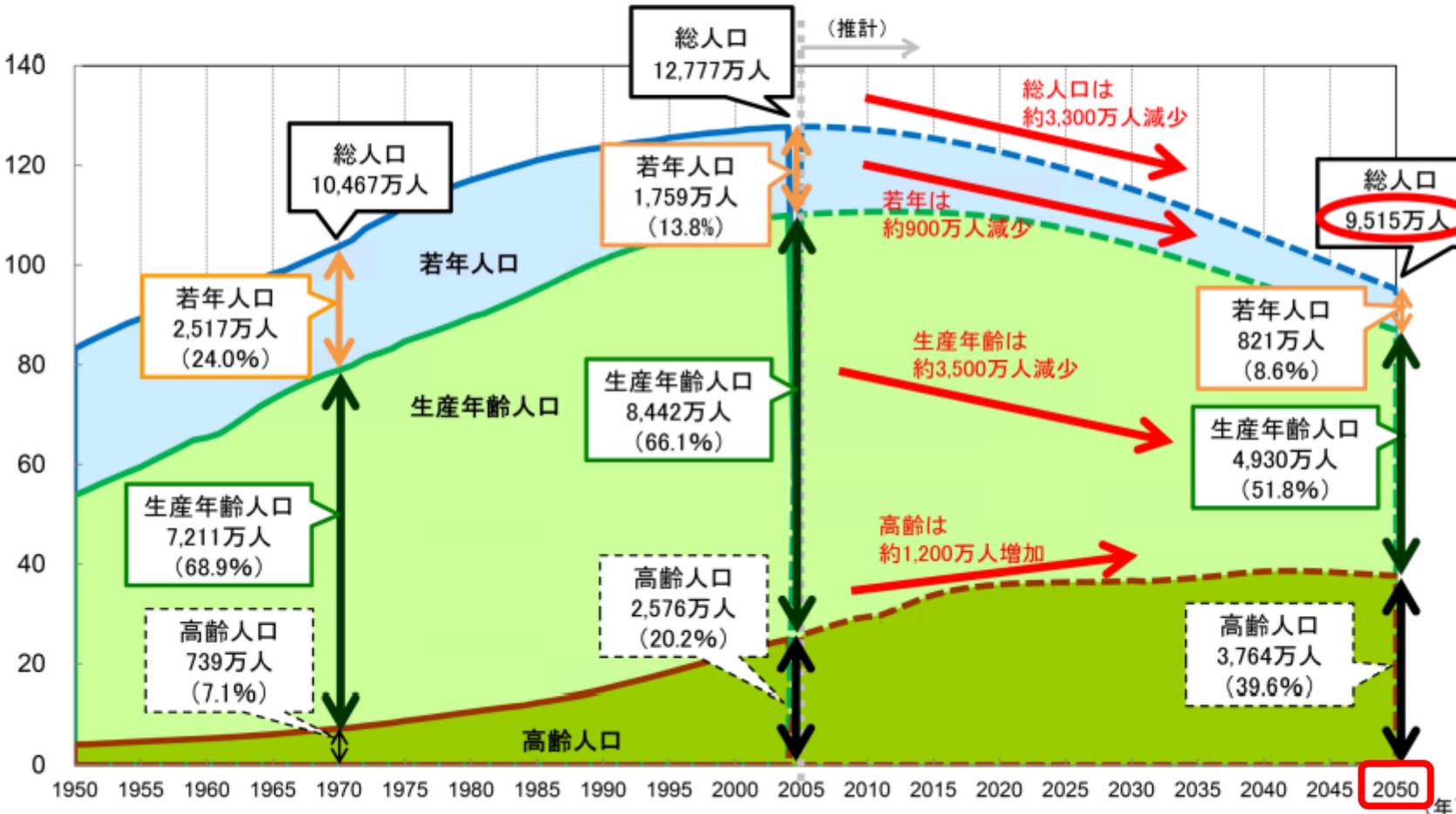
－令和の日本型学校教育－



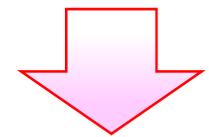
R6.5.11 教育委員会学校適正推進課

我が国における総人口の推移（年齢3区分別）

- 我が国の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人（約25.5%）減少。
- 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果、高齢化率は約20%から約40%に上昇。



2020年
外国人2.2%
50人に1人

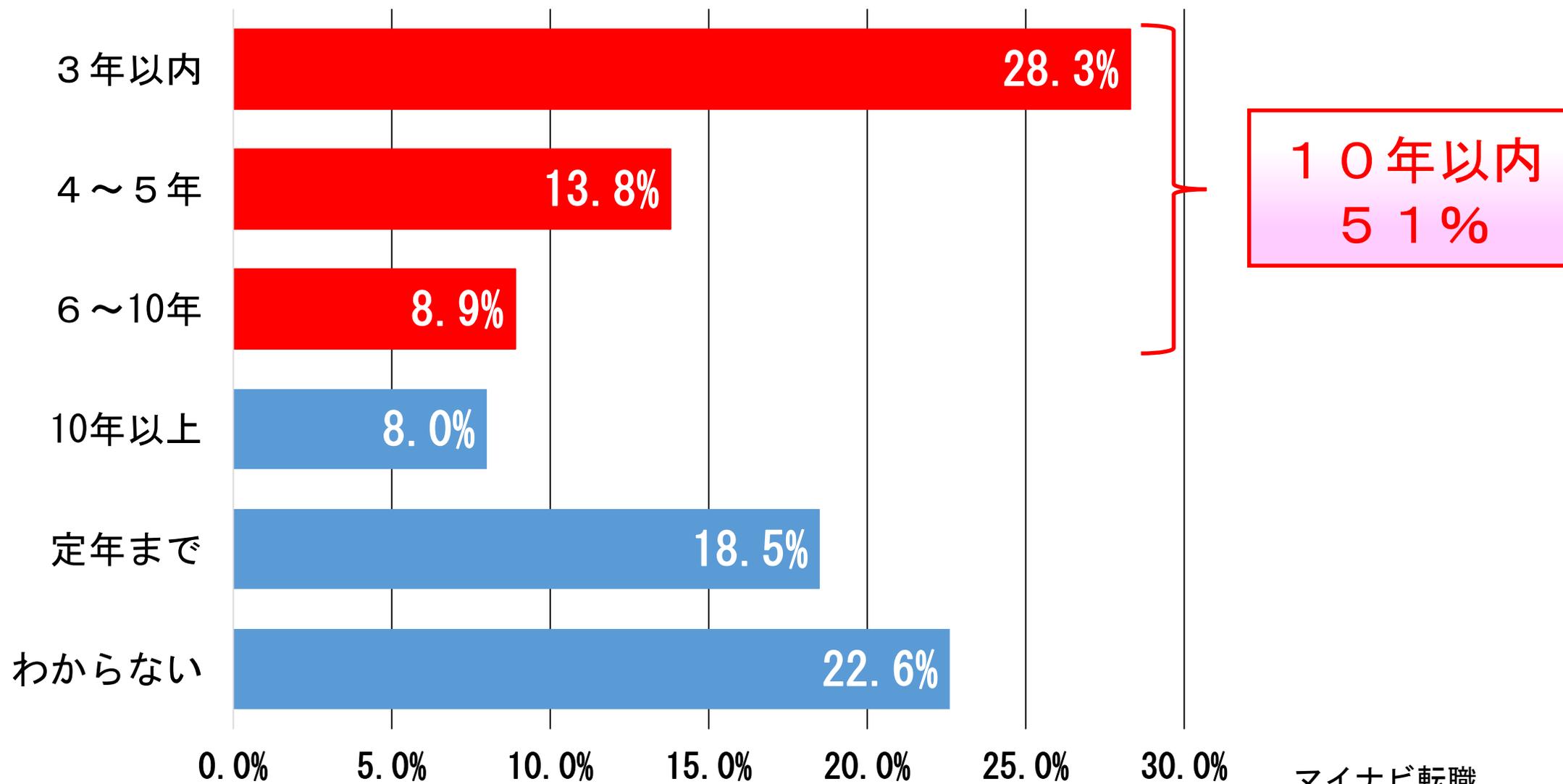


2070年
外国人10.2%
10人に1人

(注1) 「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
(注2) ()内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合

(注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている
(注4) 1950～1969、1971年は沖縄を含まない

新入社員 今の会社で何年働く？



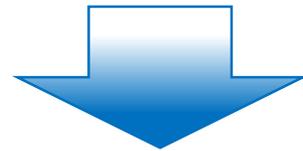
「人生100年時代」の大きな変化

■日本の「カイシャ」は究極の「3ステージ」モデル
「新卒一括採用」「年功序列人事」「定年制」

■「3ステージ」モデルの人生



- ・みんなが一緒に進む
- ・暦年齢とステージがリンク
- ・変化の少ない人生モデル

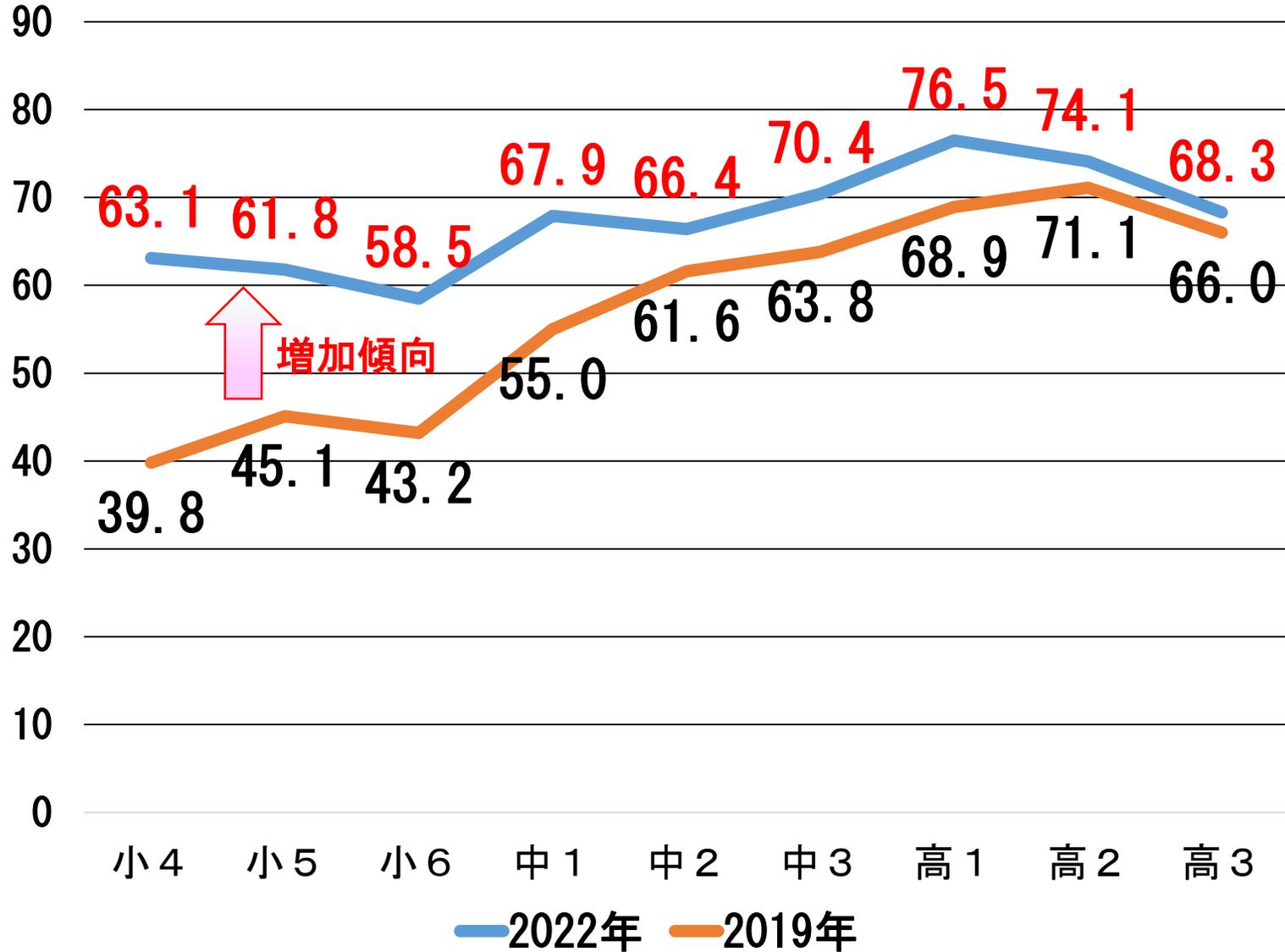


■「マルチ・ステージ」モデルの人生（例）



- ・一人ひとりが違う
- ・暦年齢とステージは別
- ・変化の多い人生モデル

上手な勉強の仕方が分からない



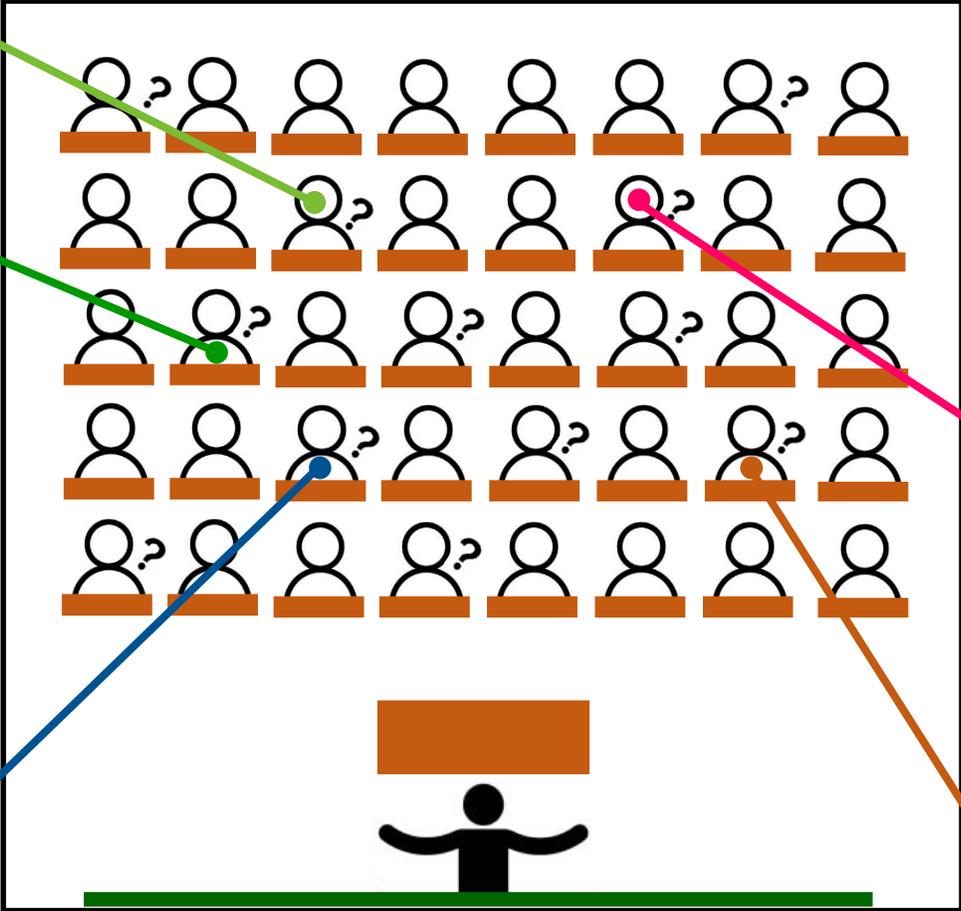
中学校・40人学級の多様性

特異な才能のある子ども
0.9人
(2.3%)

発達障害の可能性のある子ども
2.2人
(5.6%)

不登校
2.4人
(6.0%)

不登校傾向
4.1人
(10.2%)



家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子ども
13.9人
(34.8%)

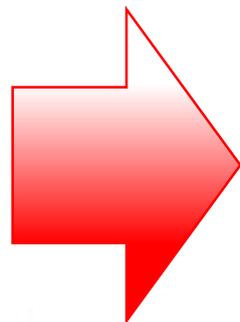
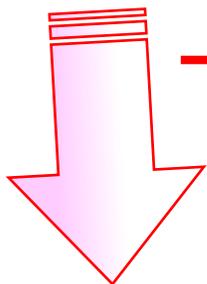
日本語を家であまり話さない子ども
1.3人
(3.2%)

内閣府

「これまで通り」で「誰一人取り残さない」は可能か？



一斉授業



複線型授業



同じ時間
同じ教室の中で



単線型授業
(従来型)



一斉でインプット

個別最適な学び・協働の学びの実現のために！



教師の指示で一斉に端末活用や協働



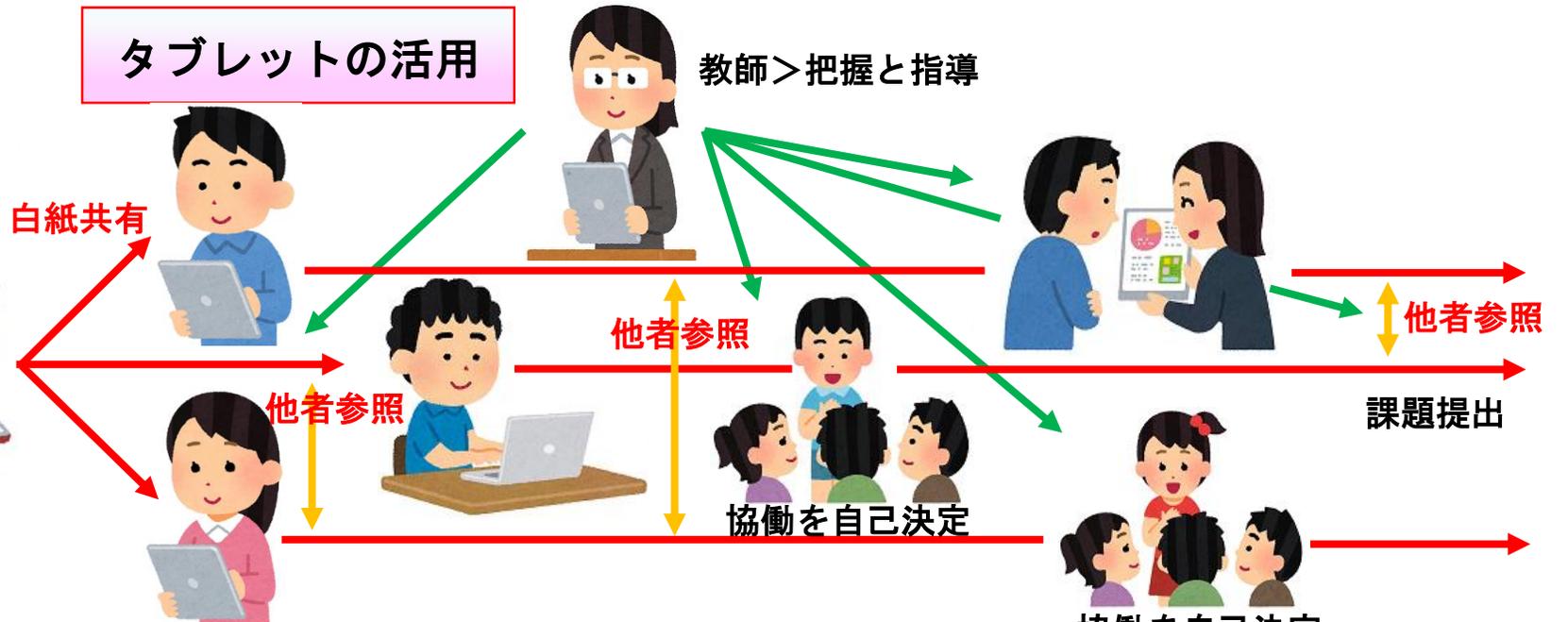
教師の指示で一斉発表

複線型授業
(クラウド活用)



一斉でインプットや
課題・活動確認

タブレットの活用



学習の途中を何度でも参照 (途中参照) URLの活用 協働を自己決定

これからの学校には……(略)

一人ひとりの児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在と認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

英語力

読解力

表現力

ICT活用
スキル

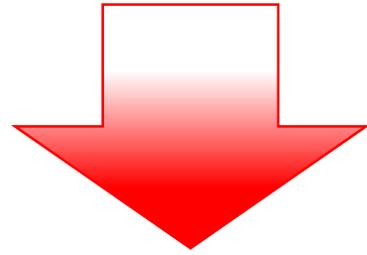
非認知
能力

などなど



少し先の未来を
見据えて！

「教わる」教育から



「学び方を学ぶ」 教育へ

そのために！
ある程度の学習集団
協働し、切磋琢磨
できる人数が必要



学習環境規模適正化推進計画